

中央大学資料集の発行にあたって

中央大学百年史を編集するにあたり、中央大学百年史編集委員会と同専門委員会は、その事業の一環として中央大学資料集の刊行を計画してまいりました。すでに、『中央大学百年史編集ニュース』でお伝えしたように、専門委員会は一九八二（昭和五七）年の一月からほぼ月一回のわりあいで開催し、公開の月例研究会をおりませながら編集の準備を進め、それなりの資料蓄積と編集の方法をふかめてきました。しかし、中央大学の場合、これまで組織としてあまりにも歴史に冷淡で、一般に関心も低かったせいも、基礎史料は絶無に近く、百年史にとりくむにあたって、ゼロの地点からスタートせざるをえませんでした。

こうした事情のもとで、この間、広報部の大学史編纂課に事務局を設け、これまた、『編集ニュース』の「編纂室活動日誌」をご覧になれば解っていただけたと思いますが、学内はもちろんのこと、「伝手」をたどりながら広い範囲にわたって精力的に資料を蒐集し、専門委員会と密接な関係を取り整理を進めてきております。この資料集第一集はその成果の一端です。

そこで、中央大学資料集の性格について一言のべておかなければなりません。わたしたち専門委員は、一九八五（昭和六〇）年の大学百周年にむけて、目下、『図説中央大学の百年』刊行の準備を具体的に進め、そのあと、事業の本体ともいえるべき資料編、記述編、年表編を編集、執筆していく予定をたてております。したがって、この資料集は、いわば内部資料というべきものであり、まさに、基礎史料ともいえます。

なお、この資料集の第一集は、あらためて説明するまでもありませんが、東京都公文書館所蔵の英吉利法律学校設置時から東京法学院時代を経て、東京法学院大学、中央大学、そして、「大学令」による大学設立にいたる史料を収録いたしました。ぜひ皆さんに、今日の中央大学の草創期から発展の過程について、また、日本の近代における私学中央大学がしめた位置なり役割を、史料から読みとっていただきたいと思えます。

一九八四年一月

専門委員会主査

金 原 左 門